

提出代表者
足立 正光
雨宮美菜子
永栄 恵二
山ノ内芳彦
(連絡先) 米子市内町 53

災害がれきを受け入れないことを求める陳情

1、要旨

遠方への輸送を伴う災害がれきの広域処理は安全性、必要性に欠けるので、受け入れないことを求めます。

2、理由

(1) 山陰が放射能で汚染されるおそれがあります。

焼却施設のバグフィルターでは、放射能は完全に除去できません。外部に放射能が放出され、農地、山林、海、川を汚染します。食べ物の安全性が失われるとともに、地域の重要産業である農林漁業が大打撃を受けます。放射能の管理については、拡散させないことが世界の常識であると言われています。東北への支援は、がれき受け入れではなく、原発事故からの避難者の受け入れ、現地への安全な食料の提供、市職員 の応援派遣などで行うことを提案します。

(2) 低線量内部被曝の危険性が指摘されています。

神戸大学大学院・山内知也教授によると、スウェーデンの百万人を対象にした疫学調査で、セシウム 137 について平方メートル当たり 100kBq というレベルの地域で生活するとガンの発症率が 10% 高くなることが示されています。つまり、放射能が少ないから安全であるとの主張は、根拠のないものです。

(3) 現地で処理した方が、被災地の復興支援になります。

国からは、がれき広域処理の必要性について納得できる説明はありません。被災地である岩手県岩泉町の伊達勝身町長は、「使っていない土地がいっぱいあり、処理されなくても困らないのに、税金を青天井に使って全国に運び出す必要がどこにあるのか」と述べ、広域処理について疑問を呈しています。また、陸前高田市長や南相馬市長も地元処理、地元活用を要望しています。がれきを地元で処理することで、被災した地元に雇用を生み出すこともできます。復旧・復興のための予算は地元で使うべきです。

名 前	住 所